

2. 教育課程編成のための準備調査の集計結果報告

齊藤真子 榎本直子 柳田嘉久

【抄録】 平成六年度実施の新教育課程の編成に向けて、学校に基礎をおいた教育課程を編成するためには、附属学校における現行の教育課程の問題点や評価すべき点を知る必要がある。生徒と保護者と先生にアンケートを実施し、三者のそれぞれの立場からの考え方や意識についての集計結果を比較検討した。さまざまな課題が、新教育課程編成の前にあるが、小人数で個を伸ばす教育を実践してきた附属学校のあり方に基礎をおいて考えたい。

【キーワード】 新教育課程編成、アンケート、集計結果

1. はじめに

学歴偏重社会であるために、標準化された教育内容を効率的に教える必要から、教育の画一化や閉鎖性が問題になって久しい。国際化や情報化が進む現代社会の動きの中で、その教育における硬直化を改善し、生徒一人一人の個性をより生かし、国際社会の中で通用する豊かな人間性を育み、多様で独自性ある自己確立をできるようにすることが、今回の教育課程のねらいである。

さて、平成六年度実施の新教育課程に向けて、附属学校における現行の教育課程の問題点や評価すべき点を知るためにアンケート調査をおこなった。従来、教

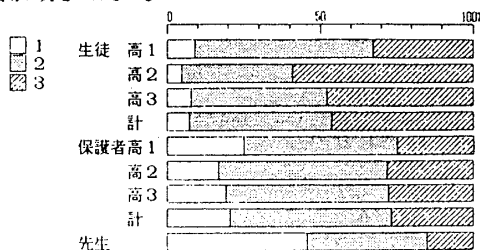
育課程の編成に、保護者や生徒の意識が考慮されることは少なかった。しかし、学校に基礎をおいた教育課程編成を模索する上では、生徒、保護者の考えや意識を調査し、先生と比較する事の意味は大きい。1990年7月に附属高校の生徒（高1年 133名、高2年 125名、高3年 125名 計 383名）と保護者（高1年 100名、高2年 93名、高3年 86名 計 279名）と先生33名にアンケート調査を実施した。その集計結果を報告するとともに、小人数で家族的、生徒一人一人の個性を大切に、ゆとりある教育を実践してきた附属学校に基礎をおいた教育課程編成のための課題と具体的な提案をしたいと考えている。

2. アンケート集計結果

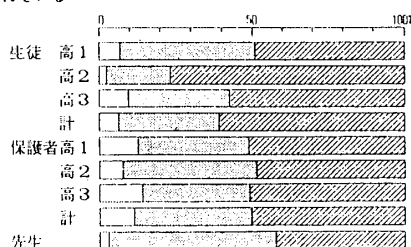
【対象】
 生徒 高1 133名 高2 125名 高3 125名 計383名
 保護者 高1 100名 高2 93名 高3 86名 計279名
 先生 33名
 【実施日】
 1990年7月

(1) 附属高校の特色 1 そう思う 2 どちらともいえない 3 そう思わない

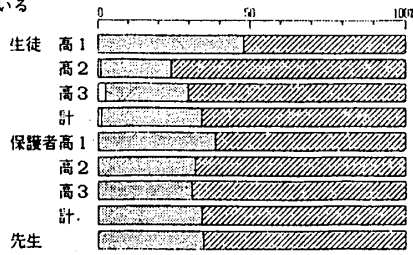
①教科の指導に力をいれている



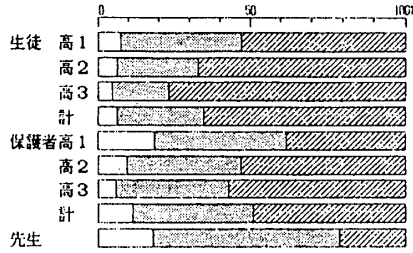
②進学指導に力をいれている



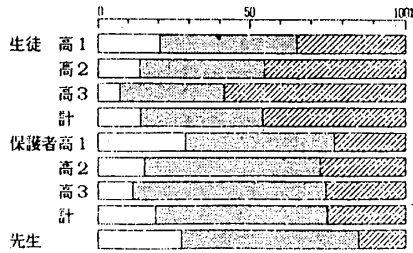
③就職指導に力をいれている



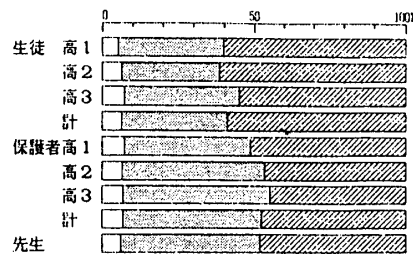
④クラブや部活動に力をいれている



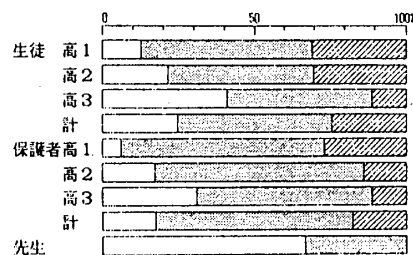
⑤生徒会活動に力をいれている



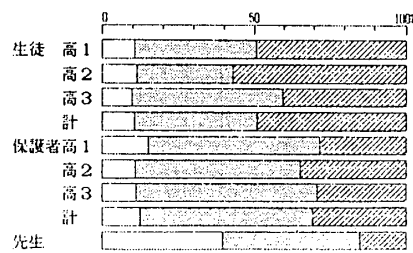
⑥規則を守らせることに力をいれている



⑦選択科目が多い

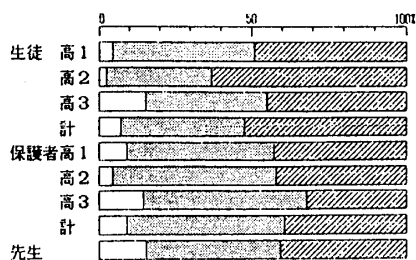


⑧実技や実習や実験が多い

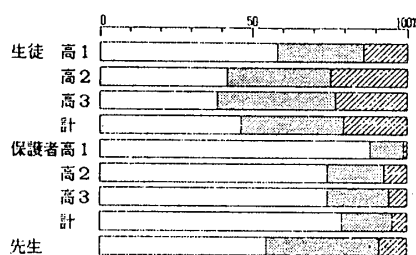


教育課程編成のための準備調査の集計結果報告

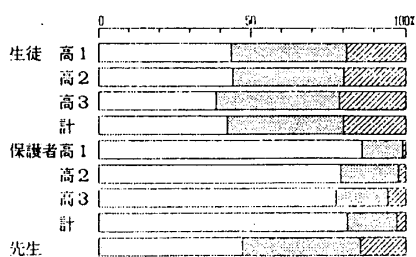
⑨生徒の能力・適性・進度に応じたクラスやコース編成をしている



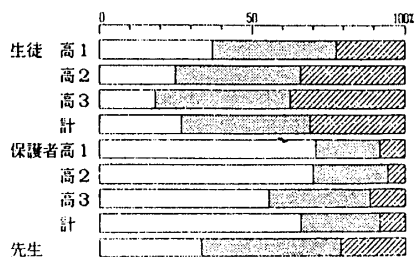
⑩自主性を尊重する校風がある



⑪環境がよい

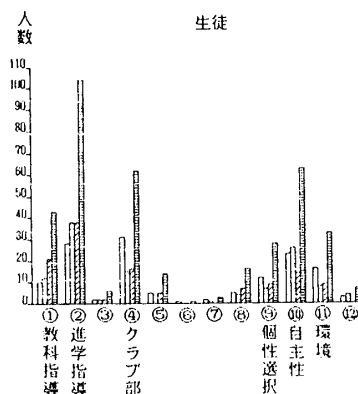


⑫中高一貫教育でゆとりがある

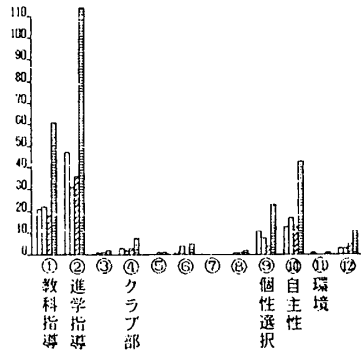


(2) 附属高校で特に力をいれてほしいこと

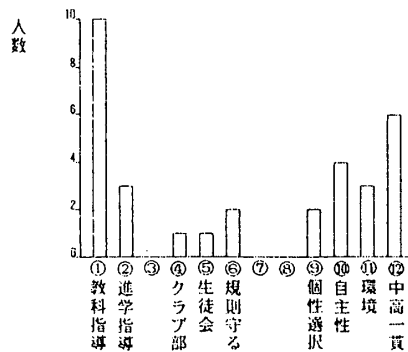
高1
 高2
 高3
 計



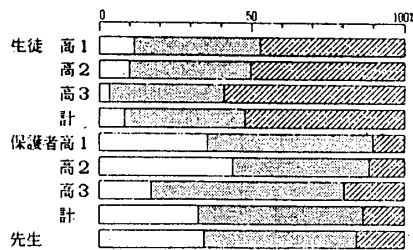
保護者



先生

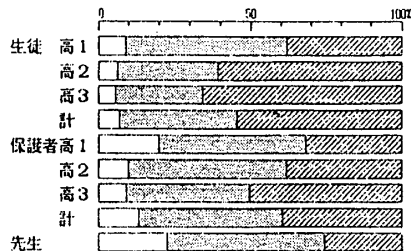


(5) 本年度より、附属高校では「国際理解と平和の教育」をテーマとしていますが、そのような教育が行われていると思われますか。

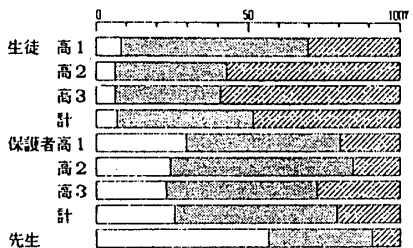


(6) 附属高校で受けている授業は、どんなことに役立つと思いますか。

①大学の入試に役立つ

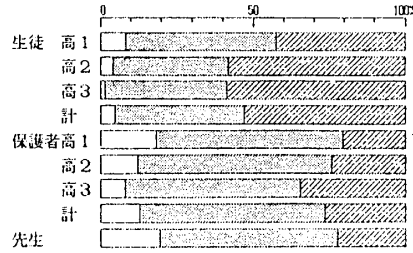


②大学で学ぶのに役立つ

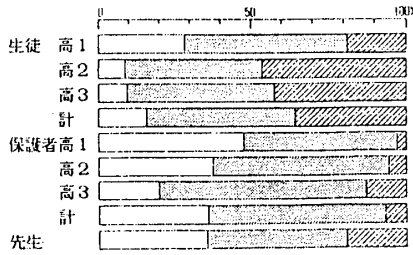


教育課程編成のための準備調査の集計結果報告

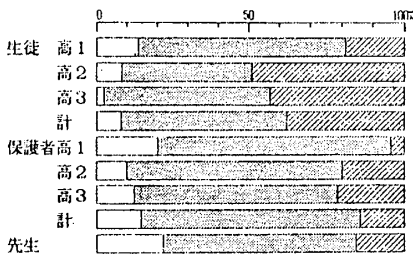
③ 将来の仕事をやっていく上での
知識や技術が身につく



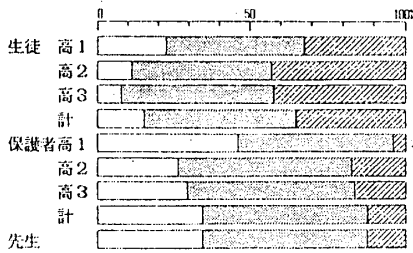
④ 社会生活に役立つ知識が得られる



⑤ 家庭生活に役立つ知識や技術が得られる



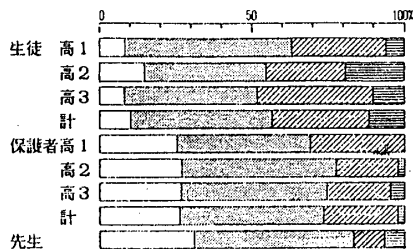
⑥ 知的興味を充足してくれる。
知的訓練になる



(5) 教育課程を編成するにあたって、
は何ですか。

重点をおいてほしいと思われること

- 1 一般教養として幅広く多くの科目を学ぶ
- 2 個人にあった選択が出来る
- 3 大学入試に有利である
- 4 社会生活にすぐ役立つ科目を学ぶ



その他の意見

《生徒》

まず大学進学でしょう。
個性のだせる選択がしたい
国際的な授業科目
生徒の意見を尊重

《保護者》

高一 ある程度の大学へ入学する学力がついた上で幅広い教養が身につけてほしい
入試の勉強に力を入れる。
大学入試のための努力を全くしていないのは、学校とはいえない。
スピードを出してほしい。学習にもっと力を入れてほしい。
学習の進度、内容が少し甘すぎる用と思われる。
自由を重んじることとその様にうながすことを大切にしてほしい。

高二 自主性を待つばかりでなく、人格形成（礼儀をわきまえる）
ゆとりが怠惰に結びついていないか
大学入試に有利である（3）かつ、一般教養として幅広く多くの科目を学ぶ
（1）に結びつけられるとよい。
現状は大学進学者が多いにもかかわらず受験からかけはなれている。
授業進度が遅い。

高三 教師の向上
中高一貫教育を生かして、中学で基礎を学び、高校は選択でよい。

《先生》

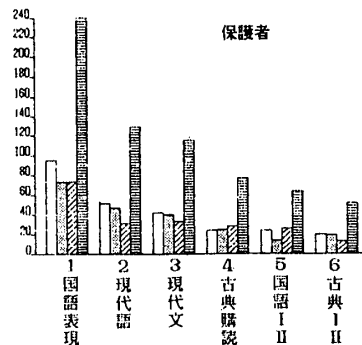
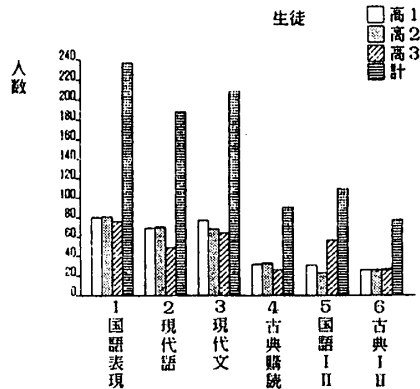
テーマ追求
地道、誠実な人格形成
教育基本法の目指す人格形成
可能な限り選択の幅を広げる
現在の生徒の能力からすれば科目の傾斜を大きく ex 私文、国文、理系
中学入試で上位が入れば comprehensive でもかまわない
生徒の質により変化

(6) 各教科

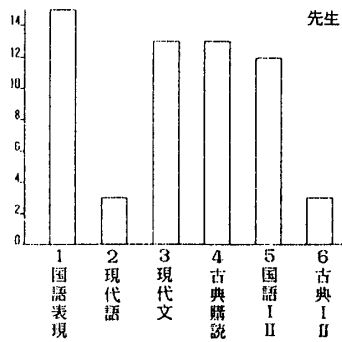
【国語】

① 学んでほしいと思われる科目

- | | | |
|-----------------|----------------|-----------|
| 1 国語表現（スピーチ、作文） | 2 現代語（菅語） | 3 現代文 |
| 4 古典講読（読みもの） | 5 国語 I、II（現古漢） | 6 古典 I、II |

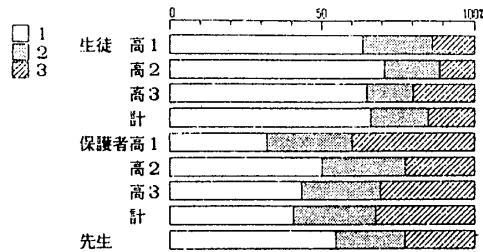


教育課程編成のための準備調査の集計結果報告



② 古典と数学との選択

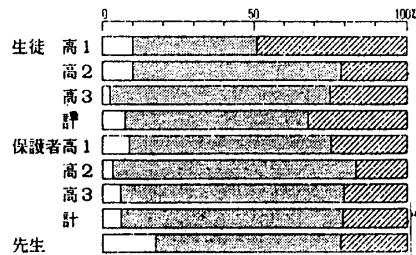
- 1 選択でよい 2 どちらともいえない 3 全員学んだ方がよい



【数学】

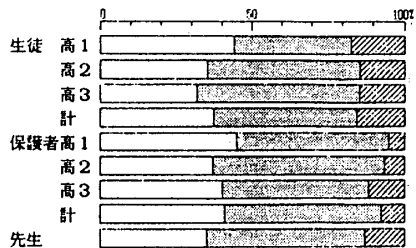
① 文系と理系との修得単位数の差

- 1 大きくしてほしい 2 現行でよい 3 少なくしてほしい



② 学習内容の選択の幅

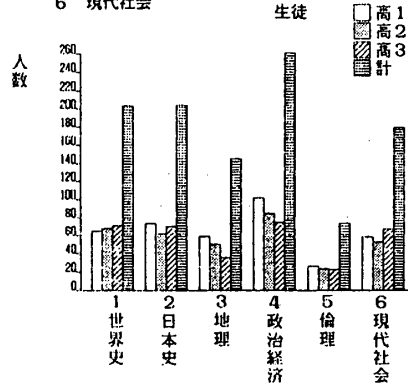
- 1 賛成 2 どちらともいえない 3 反対



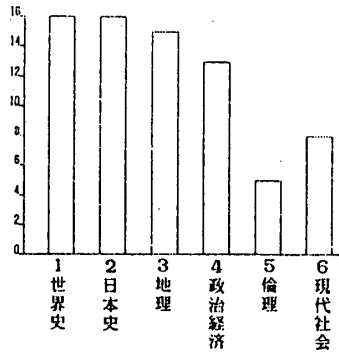
【社会】

① 学んでほしいと思われる科目

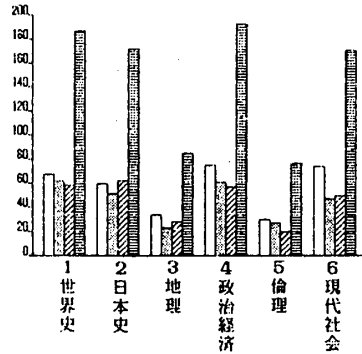
- 1 世界史 2 日本史 3 地理
4 政治・経済 5 倫理 6 現代社会



先生

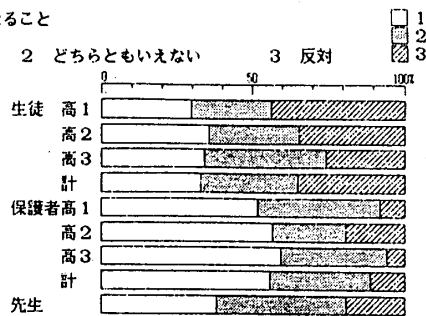


保護者



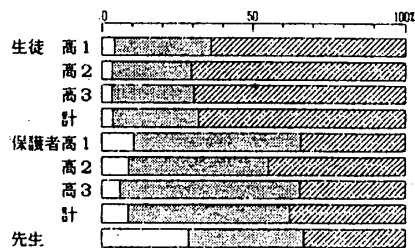
② 世界史が必修科目になること

- 1 賛成 2 どちらともいえない 3 反対



③ 高2, 高3の選択制

- 1 全科目学んだほうがよい 2 全科目学んだ上で1~2科目を深めたい
3 専門的に2科目程度を選択したほうがよい

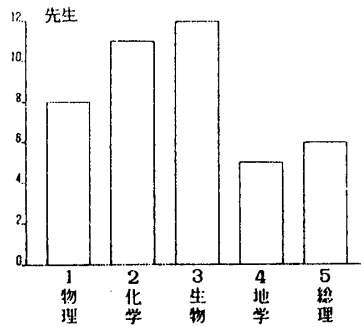
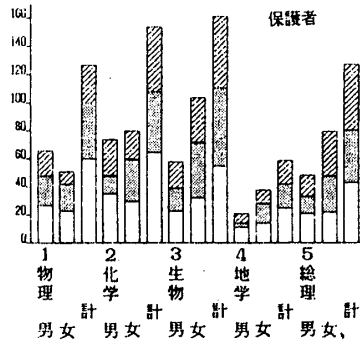
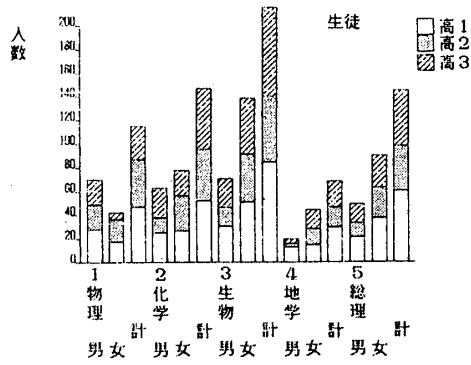


教育課程編成のための準備調査の集計結果報告

【理科】

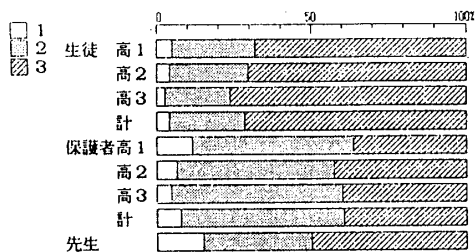
① 学んでほしいと思われる科目

- 1 物理 2 化学 3 生物 4 地学 5 総合理科



② 高2, 高3の選択制

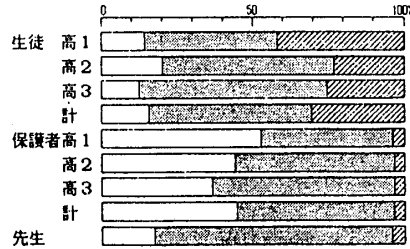
- 1 全科学んだほうがよい 2 全科学んだ上で1~2科目を深めたい
3 専門的に1~2科目を選択したほうがよい



【英語】

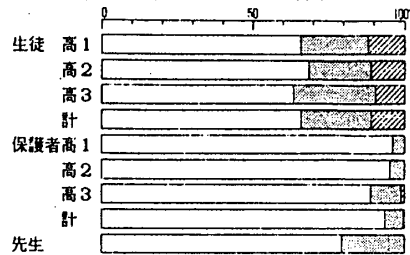
① 修得単位数

- 1 多くしてほしい 2 現行でよい 3 少なくしてほしい



② 英会話などの実用英語の導入

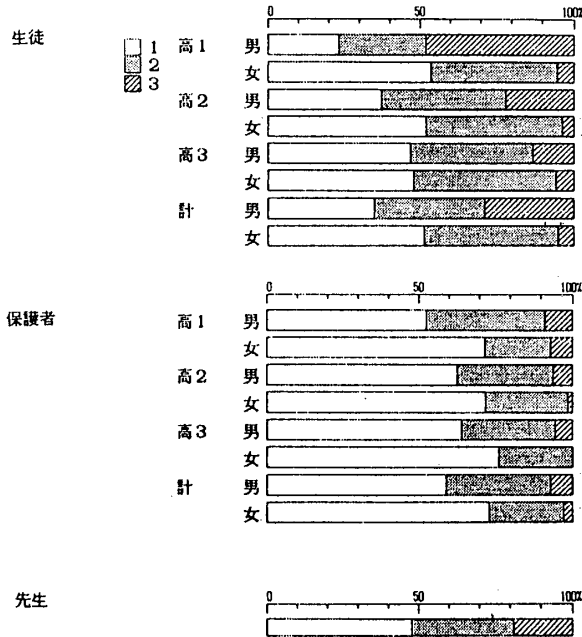
- 1 賛成 2 どちらともいえない 3 反対



【家庭】

① 男女共修

- 1 賛成 2 どちらともいえない 3 反対



② 学習内容についてのご意見

《生徒》

炊事がやりたい 料理だけなら賛成
オレは男だ 男には何の役にもたない
女だけなんてズルイ

《保護者》

- 高一 育児、料理は男子も。調理実習を多くしてほしい。家庭着程度は必ず。
- 高二 高学年男子に必要なし。洋裁等については必要なしと思うが、食物、料理実習、家事、整理は必要。実習時間を多くしてほしい。これからの男子にはぜひ必要
- 高三 男女共修賛成。技術をふくめる。料理の基本(EX 魚をさばく)を教えてほしい。家庭科(被服)の実習は後になって役にたつと思われないので理論だけでよい。

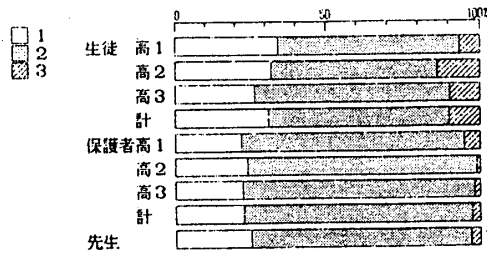
《先生》

男子には生活技術を
教材選択が重要

教育課程編成のための準備調査の集計結果報告

⑦ 高校1年の11月に行われる選択科目の調査決定時期について

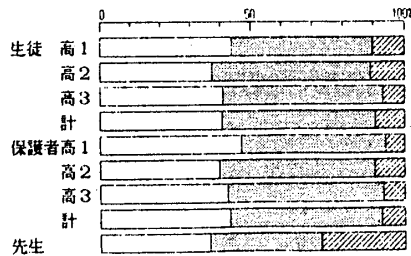
- 1 早い 2 適当である 3 遅い



⑧ 高校2年から、多くの教科で行われる選択制について

① 今後、選択制を拡大していくことについて

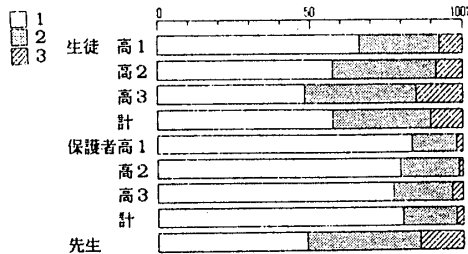
- 1 賛成 2 どちらともいえない 3 反対



⑨ 新しい教科目を取り入れることについて

(例 コンピューター、平和教育、国際交流、英会話 等)

- 1 賛成 2 どちらともいえない 3 反対



⑩ 具体的に取り入れてほしい教科目

《生徒》

7-9、コンピューター、平和教育、国際交流、英会話、英語以外の外国語、現代社会問題、実用科目

《保護者》

高一 英会話(41) コンピューター(17) 国際交流(8) 平和教育(4) 福祉教育、文化、芸術の鑑賞、国際交流をすることは大切ですがその前に日本の伝統、文化、歴史を学ぶべきだとも思います。

高二 英会話(45) 国際交流(14) コンピューター(10) 平和教育(3) 社会活動、表現活動を学ぶべきだとも思います。

高三 英会話(32) コンピューター(9) 国際交流(2) 平和教育(2) 工業技術、環境問題、道徳、大学の附属高校なのだから各学部の教授の授業があるとよい。進路決定に役立つ。NHKの「授業」のようなもの。時代のニーズに従って国際知識、情報等に関するものがまず考えられるが、教室での授業で実践に役立つとは思えない。

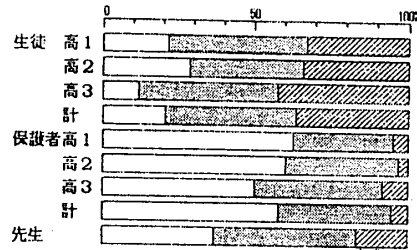
《先生》

英会話(7) コンピューター(3) 平和教育(2) 国際交流、現代史、自主性、健康教育 総合学習の拡充、環境、IT理論、第2外国語

(9) 教科外活動

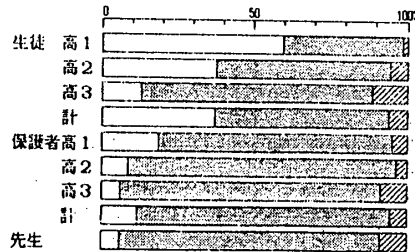
① 本年度より木曜（6限）に実施している「附属の時間」（部、サークル、クラブや国際理解と平和の教育や学校行事の準備等）について

- 1 必要 2 どちらともいえない 3 不必要



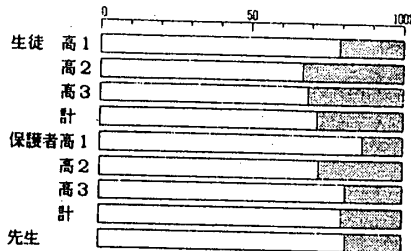
② HRの時間数について、どう思われますか。
（高1、2年は週1時間。高3年は週2時間）

- 1 増やしたほうがよい 2 現行でよい 3 減らしたほうがよい

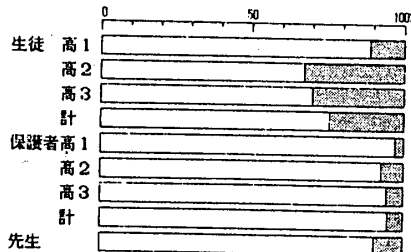


③ クラブや部活動について 1 そう思う 2 そう思わない
A自分の得意な分野の知識や技術を高めるのに重要

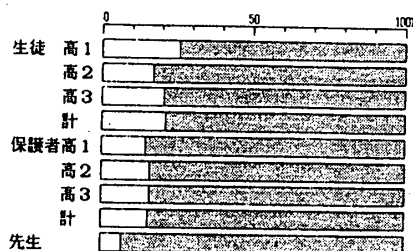
- 1 (white) 2 (stippled)



B友人や先輩との交流を深めるのに重要

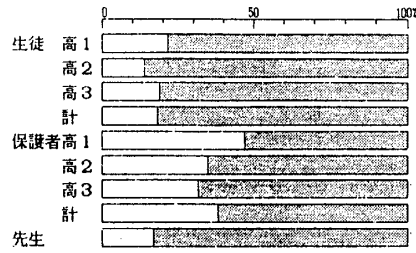


C大学入試に有利になる

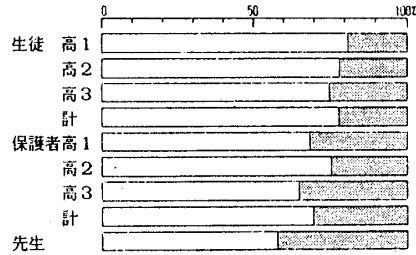


教育課程編成のための準備調査の集計結果報告

D 社会奉仕活動として重要

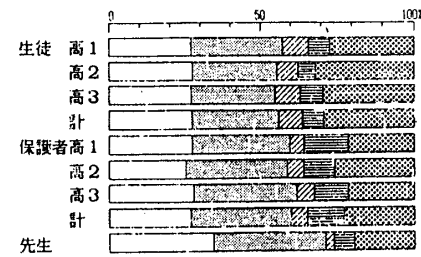


E レクリエーションや気晴らしとして重要



(9) クラブ、部の意味

- A 得意分野
- B 友と交流
- C 大学入試
- D 奉仕活動
- E レク



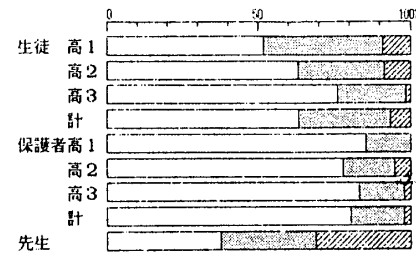
(10) 受験のための補習

1 必要

2 どちらともいえない

3 不必要

- 1
- 2
- 3

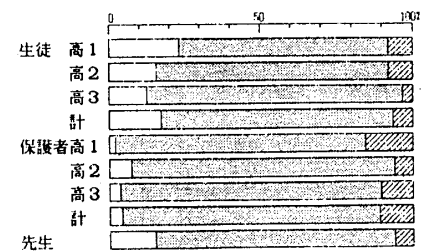


(11) 本校の修得単位数

1 多い

2 普通

3 少ない



教育課程編成上の問題点

- ① 必修科目を何にするか。
 体 男女共通必修
 家 設備の不備。
 数 選択方法
 理 選択が複雑でエネルギーが分散
 入学時に選択させることは出来ないので1年時に何を学ばせよう2, 3年につ
 ながけてゆくか。全科目出来るのが理想でも限られた単位数では無理。
 科目選択及び履修単位
 社 世界史必修で 日A2, 地A2 新指導要領での対応
 B4 B4
 時間数不足
 英 学力の上下差はいかんともし難い。習熟度別が必要
 H2, H3の1単位の選択英語は意味がない。中学でのんびりしすぎるのか
 基礎力がない。
 国 古典を全員に学習させたい。(H3で1単位全員に)
- ②
 家 入試科目以外の生徒の軽視化
 理 H2, H3で理科をとらない生徒がいても良い
 人員予算のバランス。
 社 選択科目が多い
 新指導要領の問題点を出した上で、それにとらわれないカリキュラムを組む
 社会科には5(世, 日, 地, 政経, 倫)科目が必要
 世界史必修は単純に賛成、反対を問えない問題
 移行措置期間を有効に活用し、平成6年度に向けて条件整備
 履修単位としてなら現行でよいが今後は「履修≠修得」という内容の検討が必要
 英 中3から英数で習熟度別クラス編成して授業をすべきだ
 予備校、塾へ生徒が走るのをどうすればstopできるか。
 これをあまり放置すると授業の存立が危まれる。生徒、父母のニーズに合わせ
 たメニューが必要なのではないか。
 理想論だけを言って肝心の力をつけることがこの次になっていないか。自分の
 教科の立場だけから他教をあれこれいわないように
 国 生徒の状況を考慮
 選択教科の増大によって時間割が硬直化—講師増

3. アンケート結果についての考察

(1) 附属高校の特色について

附属高校は一学年3クラスの小規模校である。そして、そのうち2クラスは附属中学からの進学者であるため、小人数で家族的な雰囲気がある。「自由でノンビリしている」と一般的には保護者に受けとられており高校からの入学者は「附属高校にきて良かった」「皆親切だ」と言う一方で「ノンビリすぎて大学入試が心配」という声があがる。

保護者から見た附属高校の特色は、⑪「環境が良い」⑩「自主性を尊重する校風がある」⑫「中高一貫でゆとりがある」の三点である。保護者の8割が「そう思う」と答えているのは、生徒と先生の5割と比べると高い割合である。だから、これらは保護者が子弟を附属高校へ進学させた理由であることをうかがわせる。

⑫「中高一貫のゆとり」⑩「自主性」⑪「環境(大学に隣接した教育環境と緑の多い自然環境)」の三点は附属高校で大切にしていかなければならないものである。

さて、現在の附属高校の教育内容やカリキュラムについては、不満が多い。

現行のカリキュラムは、小人数であるにもかかわらず、高2、高3でいろいろな選択科目が生徒の希望に応じて選択できるようになっている。だから、⑦「選

択科目」については先生の7割が「選択科目が多い」と答えているが、保護者(3割)生徒(2.5割)とでは差がある。「これ以上は選択科目はふやせない」「教科書の種類の多さがテストの問題作りが負担」との先生の声を聞く一方で、「とりたい科目がない」「選択科目に興味を持ってない」と生徒は言う。より多様な選択をしたい生徒と保護者に対して、現状では困難な点が多い。また、同様なことが⑧「実技や実習や実験が多い」でもいえる。だから、⑨「生徒の能力・適性・進度に応じたクラスやコース編成をしている」の項目では、5割が「そう思わない」と答えている。

完全抽選による中学入試で入学した多層な生徒は、一人一人の能力・適性・進度に応じたクラスやコース編成の必要性をかんじているのが多い。しかし、小人数であるため、現状では限界がある。施設、予算、人員等の改善が望まれる。

さて、生徒自身が厳しく自己評価をしていることがうかがえるのが④「クラブや部活動」⑤「生徒会活動」である。保護者や先生と比べて、「そう思わない」が多い。学校生活に対する充実感を味わえるのは、「クラブや部活動」と自主的に活動する「生徒会」主催の学校行事である。よりレベルの高いものを求めようとする生徒の姿勢を大切にしていきたい。

次に、勉学面をみると、附属高校は就職者がまれである普通科高校であるので③「就職指導」には力を入

れていないが、②「進学指導」に力を入れていないと9割の先生が答えるのは問題点である。知識偏重の受験教育ではない、生徒一人一人の適性や個性や学力にあった「進学指導」はなされなければならないからである。では、①「教科指導」をみると、先生の5割が力を入れていると自己評価をしているのに対し、生徒は1割しかそう思っていないという現状は、多くの問題点を含む。「授業が理解できないお客さんが他の学年と比べると多いね」とどの教科でもいわれる高2を生徒側からみると「教科の指導に力を入れていない(6割)」ということになる。学校生活の基盤になる教科の指導については、生徒の実態に合った教科指導や学年差を考慮したきめ細かい指導が必要という側面が浮かび上がる。

最後に、生活面を見ると⑥「規則を守らせることに力を入れている」と答えたのは、三者がほとんど一致しており、一割弱であった。⑩「自主性を尊重」という校風と裏表の関係を指摘できるのである。

(2)附属高校で特に力を入れてほしいこと

重点項目のベスト4をあげると以下のようである。

	1	2	3	4
生徒	進学指導	クラブや部活動	自主性を尊重	教科指導
保護者	進学指導	教科指導	自主性を尊重	生徒の適性で選択
先生	教科指導	中高一貫でゆとり	自主性を尊重	進学指導

三者を比較するとその立場の違いがうかがえる。生徒、保護者が「進学指導」に対して大変大きな要望を持つのは当然であろう。また、生徒が第2位に「クラブや部活動」をあげているのは、学校生活で充実感を味わうのがそこでの人間関係であるからである。次に、第3位に「自主性を尊重」では、三者が一致している。これらの項目は新教育課程のカリキュラムづくりの重点項目として参考になるであろう。

(3)学校目標「国際理解と平和の教育」について

先生や保護者に比べると、生徒の半数以上は、そういう意識をもっていない。本年度より実施であるためということもある。今後の学校行事や教科を通しての取り組みが課題である。

(4)附属高校で受けている授業は、どんなことに役立つかについて

6つの質問に共通しているのは、先生や保護者に比べて、生徒が否定的な答え方をしていることであろう。高校生自身が現在の授業を将来の自分にとってどんな意味を持つかという点で確かな自覚を持つことは大事なことである。これは、日々の学習意欲につながるこ

とであるので、生徒1人ひとりがそれを持ちえる方策を考える必要がある。また高1より高3の方がその傾向が強いのは、将来に対する選択が具体化してくるからであろうか。「何のために学ぶのか」という目的意識を生徒自身が、日々の高校生活が充実したものであることにより、みつけられるような教育課程が考えられてよい。

さて、保護者と先生を比べると、④「社会生活に役立つ」⑥「知的興味を充足してくれる」では差がないが、②「大学で学ぶのに役立つ」と①「大学の入試に役立つ」③「将来の仕事での知識や技術」では、差がみられる。先生の5割強は②「大学で学ぶのに役立つ」授業をしていると考えている。

だから、先生と生徒との意識のギャップをどうなくしてゆくかが今後の課題であろう。

(5)教育課程を編成するにあたって、重点をおいてほしいと思われること

	1	2	3
生徒	個人にあった選択	大学入試に有利	社会生活に役立つ
保護者	個人にあった選択	一般教養	大学入試に有利
先生	個人にあった選択	一般教養	大学入試に有利

教育課程を編成する第一条件は、三者で共通しており、個人にあった選択が出来ることである。

そして、第二位からは、保護者と先生(大人)の意見が一致する一方で、生徒(高校生)は、目前の大学入試やすぐ社会生活に役立つ科目を選べることを希望している。生徒の意見を尊重する教育課程を旨とするのは、生徒一人ひとりを生かし、高校生活の充実度につながるから、①「個性のだせる選択幅」②「大学進学」③「国際的な授業科目」の三点を重点項目とする方向の確認をする事は必要であろう。新教育課程を各教科の時間数の割り当てや妥協の産物にしてしまう事ではいけない。いろいろな制約や、現実的な諸条件があるが、生徒の意見を基盤にして考えるのがよいのではないだろうか。

(6)各教科について

教科内容については、保護者にはわからない点が多いだろうが、大まかな傾向はわかるだろう。

【国語】

国語表現への要望が大きい。古典では、難しい古典Ⅰ、Ⅱより、易しい古典講読の方を選択できるとよいと考えている人が多い。

【数学】

文系と理系との修得単位数の差については、「2現行でよい」と考えている人が多く、学習内容の選択の

幅については、賛成が4割である。

【社会】

「政治・経済」は生徒や保護者から要望があり、「世界史」「日本史」は先生からの要望がある。

「世界史」の必修については、現行の課程ですでに本校では「世界史」が必修科目になっている。学年が上になるほど生徒の反対は少なくなる。

さて、高2、高3での科目の選択方法については、生徒の7割が専門的に2科目程度を選択したほうがよいと考えているのに対し、保護者の方は、全科目学んだ上で1～2科目を深めたいの方を支持している。現行の附属高校の社会の選択方法は、全科目を学ばせる方法である。

【理科】

科目による三者の差はみられないが、男女差がみられる。物理は男子の選択者が多い。それ以外は、女子が多い。

さて、高2、高3の選択方法については社会と同様の傾向である。しかし、現行の附属高校の理科の選択方法は社会と反対に専門的に1～2科目選ばせている。

【英語】

修得単位数については、「1多くしてほしい」という保護者と「3少なくしてほしい」との生徒が真っ向からぶつかる。また、「英会話などの実用英語の導入」に保護者の9割以上が「賛成」であるが、生徒の「賛成」は6割になる。本校では従来、能力差のある生徒集団に対し高3（高2でも）で習熟度別クラス編成をとっている。外人講師による授業もある。

【家庭】

新課程の男女共修については、生徒の意識には微妙なものがあり、男女差がみられる。しかし、高1の男子より高3の男子の方に反対より賛成が多くなるのはその必要性を認識するからであろうか。

また、保護者でも、男子生徒と女子生徒の親ではその考え方に差がみられる。

(7)選択科目の決定時期について

従来高校1年の11月に行われているが適当であると考えられる。

(8)高校2年からの選択制について

拡大していくことに賛成が4割。また、新しい教科目を取り入れることについては、保護者の8割が賛成している。

(9)教科外活動について

本年度4月より木曜（6限）に実施している「附属

の時間」は「不必要」が4割で「必要」は2割。

HRの時間数については、高1の生徒に「増やしたほうがよい」が目立つ。中学（道徳や生活を含む）と比べると少なくなるから、よけいそう感じるのであろう。

クラブや部活動についての結果をみると、「自分の得意な分野の知識や技術を高める」「友人や先輩との交流を深める」「レクレーションや気晴らし」としての意味を感じる一方「社会奉仕活動」「大学入試に有利」とは、生徒はとらえていないことがわかる。アメリカと比較すると、日本の高校生の特色といえよう。学校生活が充実しているかという事を知る上でも興味深い。

教科外活動の見直しは、とりかかったばかりである。総合的な視点と、中高一貫を基礎において、生徒の個性を生かす方向づけが今後の課題である。

(10)受験のための補習について

必要とするのは、生徒6割。保護者8割。先生3.5割。

(11)本校の修得単位数について

先生と生徒は、ほぼ一致しており、「普通」が7割。

4 新教育課程編成の重点項目

アンケートの結果をみると選択科目の開講の現状と今後の設定や補習・補充授業については、先生側・保護者側・生徒側の三者がそれぞれの分野で、その考え方がほぼ三分の一程度ずつにグルーピングできる。

要望は多岐に亘り、事項によっては相容れないものもあるので、すべてを包含できるものではない。新学習指導要領に沿わない事項もあるので教育的にみて適正な判断をしながら取捨選択をしてゆかなければならないだろう。

例えば、生徒の実態と進路上の諸条件と保護者の要求をどのように、教育課程の編成に反映させたらよいかについてみると、教科・科目の性格と学習内容を踏まえて編成作業に取り組み、生徒一人ひとりの特性や個性に応じた弾力的（選択科目の導入を含む）な科目選択に留意し、教科指導に当たれば、進路指導に矛盾するものではないと考えられる。

何れにしても偏見に陥らないことが大切であろう。

さて、附属高校の教育課程の重点項目としては次のようなものがあげられる。

- ①カリキュラムにおける中高一貫
- ②生徒自身による進路、適性に応じた科目選択幅の拡大
- ③学校目標、生徒の実態、地域の教育環境にあった

教育課程編成のための準備調査の集計結果報告

新しい教科、科目の設置

例 英会話 コンピュータ 国際交流 平和教育 など

④学校5日制への対応 (『本校紀要第35集 p94~95』参照)

⑤教科・科目の教育内容の見直しと再編成

例 世界史必修、家庭科男女共修、体育保健

⑥教科外活動 (HR、クラブ、部活動等) の総合化

例 「附属の時間」として、学校行事やクラブや部活動やHRを総合的にそらえ、時間を弾力的に運用する。

(文責 齊藤)

5 附属高校新教育課程試案

教科	科目	標準 単位数	第一学年				第二学年				第三学年				合計					
			共	文	理	自	共	文	理	自	共	文	理	自	共	文	理	自		
国 語	国語Ⅰ	4	5												5					
	国語Ⅱ	4		4																
	国語表現	2							2											
	現代文	4							3											
	現代語	2																		
	古典Ⅰ	3			◆ 2															
	古典Ⅱ	3								▲ 3										
地 歴	世界史 A	2						▲ 2		■ 2		● 2								
	世界史 B	4			▲ 4				■ 2		● 2									
	日本史 A	2	◇ 2						■ 2		● 2									
	日本史 B	4	◇ 2		▲ 2				■ 2		● 2									
	地理 A	2	◇ 2						■ 2 ⑥		● 2									
	地理 B	4	◇ 2		▲ 2				■ 2		● 2									
	現代社会	4	☆ 2	☆ 2					■ 2		● 2									
公 民	倫理	2	☆ 2	☆ 2					■ 2		● 2									
	政治・経済	2	☆ 2	☆ 2					■ 2		● 2									
	数学Ⅰ	4	5												4					
数 学	数学Ⅱ	3		3											3					
	数学Ⅲ	3								◆ 3								4		
	数学 A	2						◆ 3			● 2		2							
	数学 B	2									■ 2							2		
	数学 C	2									■ 2							2		
	総合理科	4																		
理 科	物理Ⅰ A	2	◇ 2																	
	化学Ⅰ A	2	◇ 2																	
	生物Ⅰ A	2	◇ 2																	
	地学Ⅰ A	2	◇ 2 ④																	
	物理Ⅰ B	4	◇ 2		▲ 2	▲ 4					▲ 2									
	化学Ⅰ B	4	◇ 2		▲ 2	▲ 4 ⑥					▲ 2									
	生物Ⅰ B	4	◇ 2		▲ 2	▲ 4					▲ 2									
	地学Ⅰ B	4	◇ 2		▲ 2	▲ 4					▲ 2									
	物理Ⅱ	2									■ 2									
	化学Ⅱ	2									■ 2 ④									
	生物Ⅱ	2									■ 2									
地学Ⅱ	2									■ 2										
保 体	体育	9	3	3						3										
	保健	2	1	1																
芸 術	音楽Ⅰ	2	○ 2																	
	美術Ⅰ	2	○ 2																	
	書道Ⅰ	2	○ 2																	
	音楽Ⅱ	2			○ 1															
	美術Ⅱ	2			○ 1															
	書道Ⅱ	2			○ 1															
	音楽Ⅲ	2																		
	美術Ⅲ	2																		
	書道Ⅲ	2																		
英 語	英語Ⅰ	4	5												5					
	英語Ⅱ	4		4											4					
	オラル・コミニ A	2			◆ 1							● 2		-2					-2	
	オラル・コミニ B	2			◆ 1							● 2		-2					-2	
	オラル・コミニ C	2			◆ 1							● 2		-2					-2	
	ライティング	4								√ 5	■ 4			-5						
	ライティング	4			▲ 2					√ 5	■ 4			-5	4					
家 庭	家庭一般	4	◇ 2	◇ 2								● 2								
	生活技術	4	◇ 2	◇ 2																
	生活一般	4	◇ 2	◇ 2																
総合学習												● 2								
ホームルーム	1	1	1						1											
クラブ活動	1	1	1						1											
単位数合計		33		22	11	11			15	13	13	4								
単位数学年合計					33					32										